

通信

NO. 30
平成27年7月号

ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目
33番11-702号
☎092-409-4177

ガザニア



ガザニアは、耐暑性、耐寒性に優れている。

わが家ではプランターで栽培している。

目が覚めるように鮮やかな黄色で、晴れた日の日中に開花し、夕方には閉じる。

花言葉は、「あなたを誇りに思う、身近の愛、潔白、きらびやか」



スタ
コラ

桜原桜の話

大隈 信夫

“花あわれ せめてあと二
旬 ついの開花を ゆるし給
え”——この歌は、福岡のみ

なさんにはよく知られている。

この短歌は、今から31年前、道路拡幅のために伐採される運命にあった樹齢50年の8本の桜を伐採から守ったきっかけになった歌である。

当初9本であった桜のうち1本が伐採され、その直後にその切り株を見た1人の篤志家が、この短歌が桜の樹に括りつけられたことから、この物語は始まった。

その後、地域のかたの“桜を憐れむ歌や思い”が次々と寄せられ、西日本新聞（地域最大の読者を持つ新聞）の記事にもなり、桜の樹は伐採をまぬかれ、今はあらたに桜が植樹され「桜原桜公園」として整備されている。

この桜原桜にまつわる物語として「花かげの物語」という本が発行され、3刷を数えている。

内容は、前述の短歌をきっかけにして、当時の市長や福岡博の経済界で活躍されているみなさん、また、作曲家でエッセイスト團伊玖磨さんのご縁、地元の新聞記者、福岡市の担当者や市井の多くの方々の思いが、重なり、響き合いどう紡ぎだされたのか、わくわくして読み進めた。

今回は、桜の時期からちょっとずれた話となったが、実



は、この本の著者で最初の短歌を桜に括りつけた土井善胤さんは、絵画サークル「チャーチル会博多」の大先輩“日曜画家”。私が、親しくさせてもらっている方だった。

土居さんは、毎年の絵画展には、その人柄を彷彿とさせる“ほのぼの”とした作品を出展されている。

「花かげの物語」の中で語られる市長さんや團さんとのエピソードだけでなく、職場の同僚やご家族の話、ご友人からの祝福、市民のみなさんからの反応などの記述に、土井さんが描かれる油絵に通じる人柄がにじみ出ている、その来し方にも改めて感銘を受けた。

土井さんは、私が勝手に送りつけている「通信」へも、暖かいコメントをいただく。感謝です。

この「通信」の封筒詰めと宛名シール貼りは、「障がい者の仕事をつくる」NPO法人ホーキーズの皆さんにお願いしています。一生懸命、丁寧な作業を心がけていますが、多少のずれやしわ、ゆがみなどはご容赦ください。



映画大好きの山ちゃん、毎回、自分の言葉で執筆します。

ジャージー・ボイス



監督：クリント・イストウッド
 出演：ジョン・ロイド・ヤング
 エリック・バーゲン
 マイケル・ロメンダ
 ピンセント・ピアッツァ
 2014年 米：ワーナー・ブラザーズ

世界が愛した四人の若者
 —「ザ・フォー・シーズンズ」。
 その栄光と挫折、そして再生
 の実話が映画化された。

1960年に結成された「ザ・フォー・シーズンズ」は、代表曲シェリーの大ヒットを皮切りにビルボードの一位を次々に独占し、一億枚以上のレコードを売り上げた人気バンド。

1990年にはロックの殿堂入りを果たし、リード・ヴォーカルのフランキー・バリは、現在もツアー活動が続いている。

彼らが生まれたのは、犯罪が日常茶飯事のニュージャージーでも最も貧しい地区。そこから抜け出すには軍隊に入るか、ギャングになるか、スターになるしかなかった。

四人の若者はスターダムにのし上がった。

しかし、栄光の果てに挫折が彼らを待ち受けていた…。時代を超えた名曲の真実が、深く胸に染み渡る。

60年代音楽を懐かしむ者にとってはたまらない映画である。

くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

立憲主義と戦争法

安倍内閣の支持率が急激に低下している。

これは、7月16日、「戦争法案」と呼ばれる集団的自衛権を柱とする11本もの法案を束ねた法律を自民党、公明党の与党が、衆議院で単独強行採決したことへの国民の批判が拡がっていることを示している。

今回の発端の1つに、6月4日の憲法審査会において、与党推薦の憲法学者を含む3

人の著名な憲法学者の全員が、「安保法案は憲法違反」と意見を述べ、集団的自衛権行使容認の根拠が崩壊し、安倍内閣がすすもうとしている方向が、立憲主義の大原則と相いれないことが明瞭になったことにある。

もともと立憲主義は、国の最高規範で、政権の暴走を規制し、国民の基本的な権利を保障するもので、時の政権の「解釈」によって運用できるものではない。

仮に、安倍内閣が、集団的自衛権や海外派兵を行おうとするのなら、憲法そのものを変える「改憲」の手続きをとるのが当然のことである。

今回の法案の審議は参議院に移ったが、立憲主義を踏みしめる強引な「解釈」による改憲への批判は、一層広がるだろう。



編集後記

暑い夏になった。
 日本の針路をめぐっても熱い時期を迎えている
 これからの日本の進むべき方向をめぐって、しっかりとした目で見据える必要がある。

Relationship & Partnership
ビジネス総研
ビジネス総研株式会社
 福岡市博多区博多駅前4-33-11-702
 ☎092-409-4177 FAX092-409-4170
 Eメール kuma@b-souken.com
<http://www.b-souken.com>